

キャラクター名 御伽 瀬那 (おとぎ せな)      プレイヤー名  

シンドローム	オルクス オルクス		ワークス	UGN支部長C	カヴァー	UGN支部長
			年齢	24	性別	女性
オプション						
覚醒	憤怒	衝動	吸血	初期侵食率	34	%
出自	政治権力	経験	UGNへの忠誠	邂逅	家族	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	0	0	1			1	行動値	9
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	9
精神	2	1	2			5	戦闘移動	14
社会	4	0	0			4	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	4		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	3	
運転:			芸術:			知識:レネゲイド	2		情報:UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
黒耀の鳥	RC	8r+4	8	13		ドッジ-1個、至近不可

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
防弾防刃ジャケット	6	3			

所持品		合計装甲:	3	合計回避:	0
コネ: UGN幹部 情報収集チーム		<b>ロイス</b>			
		対象	感情(pos)	感情(neg)	消費
		父親	P 感服	N 不信感	
		上司	P 遺志	N 食傷	
		神城早月	P 友情	N 隔意	
		景山一夜	P 好奇心	N 脅威	
		PC1 (三守 錬)	P 庇護	N 憐憫	
		PC4 (阿熊 宮司)	P 信頼	N 不安	
		レインボウスネーク	P 同情	N 脅威	
		最大財産P:	14	残り財産P:	9

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト:オルクス	2	2	メジャー	-	-	シンドローム		
効果: C値-LV								
アニマルテイマー	2	3	メジャー/リア		-	シンドローム		
効果: ダイス+[LV+1]								
要の陣形	2	3	メジャー		3体	シンドローム		
効果: 対象3体に。シナリオLV回								
大地の加護	5	2	メジャー			シンドローム		
効果: 攻撃力+[LV×2]								
大地の牙	1	1	メジャー	視界		<RC>		
効果: 攻撃力+[LV+2]の射撃攻撃。ドッジの判定のダイス-1								
妖精の手	1	4	オート	視界	単体	自動		
効果: 対象のダイス目の一つを10に変更								
支配の因子	1	6	セットアップ	視界	シーン(選択)	自動		
効果: そのラウンド間、対象が行う攻撃の攻撃力-[LV×5]。シナリオに一回								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

大人しめだけどちゃんと責任感がある支部長  
政治家である御伽家の娘  
御伽家はUGNを支援する政治家である (両親は非オーヴァードである)

《過去設定》  
UGNのことを覚醒前から聞かされており、いずれ瀬那も政治家になって裏でUGNを支援する役割として育てられていた  
オーヴァードなどのことを教えてもらう家庭教師が当時の支部長であったり、瀬那はともなついていた  
オーヴァードを守るために戦う支部長をとても格好いいと思い、彼を守るために支援しようと思っていた  
中学の頃、誘拐される。御伽家の妨害をしようとFHによって起こされた事件であった。  
当時の支部長が助けに来たが、敵が多かったのか、気付けば目の前で支部長が息絶えていた  
瀬那は目の前が一気に真っ赤に染まった  
UGNの職員が来たときには返り血を浴びた呆然とした瀬那、転がっている数々の土の牙に貫かれた死体、そんな中を飛び交う鳥の群れであった  
その後、オーヴァードへと覚醒した瀬那はUGNに所属、様々な訓練や勉強などの結果、支部長となる  
彼の残した功績や教えを守っていくために

「Memorial Blossom」参加後  
最悪の結末は防げた、でも払った犠牲は瀬那の心に深い傷を植え付けることとなった  
自分が行ったあの選択肢は正しくなかったのではないかと、あの時しっかりと向き合っていれば、この事件すら起きなかったのではないかと  
そんな後悔を背負いながらも、今の支部を、部下たちを、オーヴァードを守っていくために戦い続けていく